

## 特色ある学校



### 実践的技術者育成をめざして

長崎県立長崎工業高等学校長 三宅 彰

#### 1. 本校の概要

本校は昭和12年4月、応用化学科、造船科、木材工芸科の3学科を持って、長崎県立長崎工業学校として創立された。

昭和23年、6・3制学制改革により長崎県立長崎工業高等学校と改称する。以後、多くの学科が新設され、現在では全日制が機械科、機械システム科（電子機械コース、造船コース、平成16年度に電子機械科と造船科の募集を停止、機械システム科新設）、電気科、工業化学科、建築科、インテリア科、電子工学科、情報技術科の8科25学級、定時制が工業技術科、建築科の2科8学級の県下全公立高校中最大規模の学校となっている。

太平洋戦争末期、原子爆弾投下により、校舎が焼き尽くされ、校長以下職員・生徒二百余名の尊い生命を失うという本校歴史の中でも最大の悲しい出来事を経験する。その後、仮校舎や他校の校舎を一部借用するなど、7回に及ぶ校舎・敷地移転を繰り返した後、昭和46年、現在の長崎市岩屋町に移転した。今日、生徒達は、施設・設備の整った素晴らしい環境のもとで工業技術の習得に励んでいる。

卒業生は2万有余名を数え、県内はもちろん全国各地の各界で大いに活躍をしている。

#### 2. 本校の特色（3つのキーワード）

・本校は重点目標として、「資格取得」「もの



づくり「多様な進路」という三つのキーワードを設定している。

##### (1) 資格取得

現代は、まさに資格の時代といえる。

高校生にとっても資格を有することは、有能さの証として評価されるのみならず、資格取得に向けての努力は、多くの派生的な効果を生み、本人の学力向上へと繋がっている。

本校に入学した生徒へのアンケートでは、58%の生徒が資格取得を入学目的としている。このようなことから本校では、できるだけ早い時期から資格取得に向けた取り組みを行い、その一環として、資格取得の補習を早朝に、進学補習を放課後に設定している。電気科では、入学式の翌日から1年生対象の、第二種電気工事士の早朝補習を実施。他の学科においても、希望する生徒を対象に同様に補習を行っている。

また、第三種電気主任技術者や高圧ガス製造保安責任者乙種化学、工事担任者デジタル一種、基本情報技術者試験などの難関試験に



- ・平成15年度  
旋盤作業部門準優勝，電気工事部門準優勝
- ・平成16年度  
橋梁模型製作部門優勝，旋盤作業部門準優勝
- ・平成17年度  
化学分析部門全国大会出場

## ②高校生ロボットコンクール

- ・平成14年度県大会準優勝（全国大会出場）
- ・平成16年度県大会第3位（全国大会出場）

## ③ホンダエコパワー燃費競技九州大会

- ・平成5年度第8回大会から参加。

## ④柳川ソーラーボート大会（福岡県）

- ・平成8年度から参加
- ・平成15年度周回レース第2位

## ⑤マイコンカーレース

- ・平成16年度全国大会出場

## ⑥長崎工業高校インテリア科展

平成3年度年よりインテリア科で製作した作品・製品を校外で展示・発表している。

## ⑦ものづくりフェスタinながさき

長崎県ならびに県職業能力開発協会及び県技能士連合会主催で毎年開催されている「ものづくりフェスタ」に技能士連合会とともに参加（ロボット実演，作品展示等）。

## ⑧ものづくりによる奉仕活動

課題研究等で製作したリハビリ用玩具の養護学校や介護施設への寄贈，生徒製作の木製ベンチ等の近隣の自治会への寄贈をとおして地



長崎工業高校インテリア科展

域との交流を図っている。

生徒のものづくりに対する意識の高揚においては，工業技術部（機械工作部，建築研究部，電気通信部，デザイン同好会）の存在が大きく寄与している。これらの部は運動部に負けないほど熱心で，平日も遅くまで，また土曜日や日曜日にも活動し，それぞれが技術の研磨に励んでいる。

## 〈公開講座等の実施〉

校内だけにとどまらず，公開講座として，中学校との連携でものづくり講座の開講，親子で楽しむ化学実験教室などの取り組みも行っている。これらの活動の中では，本校生徒が講師やアシスタントとなって，中学生や小学生に工業技術・技能の楽しさやおもしろさを教えている。このことは，生徒自身の技術・技能力の向上やコミュニケーション能力

## 中高連携ものづくり講座





親子化学実験教室

の向上に繋がっている。

〈インターンシップ〉

夏季休業中に第2学年の就職希望者を対象



にインターンシップを実施している。職業観・勤労観の育成と同時に実践的な技術・技能の体験をとおして、ものづくりへのより一層の興味・関心を抱かせる目的もある。実施後における生徒の感想は概ね良好であり、ものづくりに対する意識の高揚にも効果を上げている。また、受け入れ先の企業からの印象も良い。

### (3) 多様な進路

最近では、生徒の進路希望も多様化しており進学者が増加の傾向にある。本校では6割が就職、4割が進学という状況である。あくまでも、就職が主体と考えているが、進学希望の生徒にも対応できるような体制づくりを行っている。

具体的な取り組みとして

- ①選択授業（2・3年生対象で数学、英語を指導）
- ②補習授業（1～3年生対象で数学、英語を指導）
- ③添削指導（小論文、面接、数学、英語等につき個別に指導）

を実施している。

また、県下全体として工業高校の校長や進路指導主事が最新情報入手と意見交換のため定期的に大学訪問を行い、互いにその情報を交換している。

本校における過去3年間の高専への編入及び大学合格の実績は次のとおりである。

#### 過去3年間の高専編入試験合格状況

鈴鹿工業高等専門学校、大分工業高等専門学校、有明工業高等専門学校、佐世保工業高等専門学校、北九州工業高等専門学校、呉工業高等専門学校、熊本電波工業高等専門学校、東京工業高等専門学校、都城工業高等専門学校、阿南工業高等専門学校、新居浜工業高等専門学校、鹿児島工業高等専門学校、津山工業高等専門学校

のべ合格者数	H14	H15	H16
	11名	20名	17名

#### 過去3年間の国公立大学合格者数 (人)

	H14	H15	H16
長崎大学	8	11	10
長崎シーボルト大学	1	1	
長崎県立大学	1		
九州工業大学	1		1
熊本大学		1	
佐賀大学	1	1	
宮崎大学	1	2	
千葉大学	2		
山梨大学		1	
奈良教育大学		1	
名古屋工業大学			1
山口大学			1

### 3. おわりに

専門高校の使命である工業技術・技能の習得を達成するために、3つのキーワードを掲げ、それぞれに力を注いで取り組んでいるが、総体的に見ると、この3つのキーワードは、深く結びついており、それぞれの実践が互いに相乗効果を生んでいる。社会に貢献できる実践的技術者の育成を図るためには、今後、今まで以上に地域、企業との交流を推進していかねばならないと考えている。

そして、さらに、技術・技能だけでなく、豊かな感性と創造性を持った人材の育成へと取り組みを進めていきたい。